◆辰馬杯［OBOGの中から顕著な働きのあった者に与えられる］

神谷　明文（剣道部・1969年経済学部卒）

在学4年時には主将として、剣道部を牽引した。昭和43（1968）年、関西学生剣道選手権優勝。関学大･副将の米田義一氏と決勝戦は伝説の一戦となっている。同年、全日本学生剣道選手権大会優勝。卒業後は学生指導に当たり、昭和56（1981）年、関学大剣道部監督、平成2（1990）年、総監督に就任。剣道部OB･OG 会（雄華会）会長を平成25（2013）年1月から令和5（2023）年1月まで務めた。 社会人としては、国民体育大会に兵庫県代表チームの大将として出場。平成16（2004）年準優勝、平成18（2006）年にはチームを優勝に導いている。 平成17（2005）年、剣道最高位の八段に昇段。 平成29（2017）年、剣道界最高位の称号「範士」が授与される。 体育会に於いては監督会会長を務めた時期もあり、2013年･2018年2度にわたりKGAA寄附講座の講師も務めた。 令和3（2021）年6月～令和5（2023）年6月全日本剣道連盟副会長。令和4（2022）年6月兵庫県剣道連盟会長就任、現在に至る。日立造船（株）の常務取締役･顧問を歴任。 令和元（2019）年には大阪府労働委員会委員としての労働行政功労が認められ、秋の叙勲で旭日双光章を受章している。

◆木村杯［現役及び指導者の中から顕著な働きのあった者に与えられる］

髙橋　宏次郎（サッカー部・2012年商学部卒）

2014年よりコーチ、2020年に監督就任。「学生の成長の為に、選手・スタッフに日々真剣に向き合うこと」をモットーに指導。2021年度関西学生サッカーリーグに於いて19勝4分1敗の過去最高成績にてチームを6年ぶり30回目の優勝に導き、続く2022年度も優勝し2連覇達成。2年連続で優秀指導者賞受賞。こうした指導実績が評価され、本年3月開催の第21回大学日韓定期戦の全日本大学選抜のコーチとして選出される。指導した学生は多数関西学生選抜に選出、Jリーガーも複数名輩出。過去には、2015年度に全日本大学サッカー選手権大会他の４冠達成時ヘッドコーチとして監督を支え貢献する。

◆米田杯［OBOGの中からK.G.A.A.の活動に関して顕著な働きのあった者に与えられる］

渡辺　淳一（ラグビー部・1966年法学部卒）

2009年～2015年　K.G.A.A.会長に就任し、功績も多い。「ＫＧウィング・ブルー21　パワー・プロジェクト」の実行、スポーツ推薦の信頼回復、画期的な試みである「寄付講座　大学とスポーツ」の開設など、顕著な業績を挙げられた。会員からの人望も厚い。

◆勇者杯［昭和38年卒業者の推薦］

拳法部

女子チームは全日本学生拳法選手権の決勝で、３人が打撃、組技、関節技を駆使して立命館大学を下し、初の全国制覇を成し遂げた。女子部員が誕生したのは、1993年の事。
29年が経って快挙を獲得したことになる。
1935年創部という古い歴史を持つ拳法部にとっても、初めての栄冠となる。現在の女子部員は７人。近年人気の増してきた拳法の裾野作りの為今後の活躍が期待されている。

◆躍々会表彰［昭和47年卒業者の推薦］

関西学院大学体育会学生本部編集部

関西学院大学体育会学生本部編集部は、少ない部員数、決して潤沢でない予算で、自弁も厭わず、体育会42部の活動を57年間伝え続けていることに対し、心より敬意を表すものである。

◆会長表彰

白石　博一（スケート部・1972年商学部卒）

スケート部OBである父親の影響を受けて、初心者としてフィギュア部門に入部。1年先輩である山下一美さん（札幌オリンピック代表）のお母様がプロコーチであったので師事。めきめき上達して、最後は6級を取得した。8級が最高の級であるが、大学始めで4年間で6級を取得するという快挙はいまだに破られていません。

中島　健郎（山岳部・2008年理工学部卒）

2018年辰馬杯を拝した後も精力的に山に登り続け、翌2019年平出和也氏とのパキスタン・ラカポシ(7788m)南壁初登攀により2020年に2度目のピオレドール賞を受賞。その活躍ぶりから今やKenro Nakajimaとして登山界を牽引する存在となった。現在は株式会社石井スポーツに所属し自身の山登りをさらに追求する一方、ガイドやTV出演、撮影写真など様々な場所や媒体で登山の魅力を伝える一翼を担う。
本氏に憧れ入部した現役部員が同様に、あるいは当時の本氏以上に山に魅了され猛スピードで実力をつけていく様を見れば、確実に次世代へとバトンが渡されたことを実感できる。多岐に渡る活動の功績と今後の歩みはこの愛嬌ある風貌とともに後世に残るであろう。
※2023年7月現在、パキスタン・ティリチミール(7708m)北壁初登攀に向けて目下挑戦中。

◆会長表彰

荒木　紀一（水上競技部・1966年商学部卒）

選手競技歴　(社会人活動を含め15年間) 昭和31年～昭和33年　神戸市立西代中学校 昭和34年～昭和36年　兵庫県立兵庫高等学校 昭和37年～昭和40年　関西学院大学体育会水上競技部 昭和41年～昭和45年
森本倉庫株式会社 弦泳会（水上競技部OB会）［略歴］ 昭和45年～平成6年　幹事　　平成　7年～平成26年　副会長　　平成27年～　監査
一般社団法人兵庫県水泳連盟［略歴］昭和48年～平成 8年 常任理事　平成 9年～平成18年 副会長　平成19年～平成24年 会　長
平成25年～令和 2年 名誉会長

遠山　　勝（卓球部・1967年社会学部卒）

2008年より副会長として弦月会東京支部を取り纏めると共に、2015年10月に開催した体育会卓球部創部90周年記念式典を実行委員長として運営し大成功を収めた。2016年3月より2023年3月まで7年間にわたり、第八代の体育会卓球部弦月会会長として、現役・監督・ＯＢ・ＯＧ間の人間関係を円滑にし、現役男子は令和5年度に関西学生春季リーグ戦で7連覇を達成。強い関学卓球部の再建に大きく貢献された。

小林　清剛（ソフトテニス部・1964年商学部卒）

学生時代全日本学生選手権ベスト8、西日本大学対抗優勝、国体優勝、4年連続全日本学生東西対抗戦出場など数々の栄光。大学卒業後、東京に移り、27歳の時（1969年）、町田市で藤の台ソフトテニスクラブを設立。1979年よりジュニアの育成にも力を入れ、東京都小学生ソフトテニス連盟、関東小学生ソフトテニス連盟の会長を歴任した。現在も現役で活躍されている。KGソフトテニス部のOB会東京支部長も永年勤められた。

星野　　悟（馬術部・1962年法学部卒）

コーチとして長年学生に熱い指導をされ、K.G.A.A.幹事としても活躍されました。またOB会の役員として知的で冷静な判断力を発揮され、会報の発刊などOB間の親睦のためにも尽力されました。

渋川真一郎（ヨット部・1975年法学部卒）

渋川氏は現役時代は主将として卓越したリーダーシップによりヨット部を関西制覇及び全日本インカレ5位に導いた。また卒業後は現役の支援及びOBOG会の後進の育成指導に尽力され、OBOG会副会長・ジェネラルマネージャーを歴任されヨット部の発展に多大なる貢献をされている。
またK.G.A.A.幹事としてもK.G.A.A.の運営に貢献をされた。

三輪　龍一（バレーボール部・1982年社会学部卒）

現役時代は、部員数が少数でありながら主将として指導に努め、関西１部リーグを維持しました。2015年のバレーボール倶楽部設立に当たり、副会長として男子部の競技指導のみならず、就職活動支援にも貢献された。又同年の女子部創部にも大いに協力し監督も兼務する事で、創部6年で関西1部リーグへの昇格もさせました。同時に男子部と同様に指導と就職支援、男子部が先に加盟したKGADへの加盟申請も進めています。

山本　　孝（バスケットボール部・1974年経済学部卒）

現役時代は関西学生バスケットボールリーグにて、ガードとして活躍し、リーグ上位の成績を治めた。女子部の監督となってからは、西日本学生での準優勝、初のオールジャパン出場等、関西女子学生の上位の地位をきづいた。

横山　瞭一（レスリング部・1967年社会学部卒）

高等部・大学と優秀な戦績を残し、卒業後は監督・総監督として20年の長きにわたり学生の指導にあたった。更にK.G.A.A.活動においても8年間幹事長・副会長を務められるなど多大な貢献をされた。

鳥内　秀晃（アメリカンフットボール部・1982年文学部卒）

大学卒業後アメリカにコーチ留学、86年からアシスタントヘッドコーチとして、また92年よりアメリカンフットボール部監督就任。
19年度シーズンで引退するまで、甲子園ボウル優勝12回、ライスボウル優勝1回。